

令和 3 年度 公約推進のためのまちづくり懇談会 質疑応答

日 時：令和 3 年 10 月 25 日（月）19 時 15 分～20 時 45 分

場 所：桐生市市民文化会館 シルクホール

参加者：一般 73 名、報道機関 3 名 合計 76 名

質問者 A	<p>一点、人口問題について伺いたい。</p> <p>旧黒保根村に加え、旧桐生市が過疎地域に指定され、新里地区を除き、国から「過疎」というレッテルを張られたと考える。</p> <p>市長は、人口減少対策としてどのような取組を行っているのか伺いたい。また、過疎地域に指定されたことへの感想や、今後の取組みについての考えを伺いたい。</p>
市長	<p>人口減少対策に関する説明において、触れておらず申し訳なかった。</p> <p>新過疎法による過疎地域への指定については、具体的な要件がある。一つは平成 2 年から平成 27 年までの 25 年間の人口減少率が 21 パーセント以上であること。また、財政力指数とあって、自治体が抱える財政力を数字で表すもので、大きいほど自主財源の割合が高いことを表す数値が 0.64 以下であることの両方を満たすと対象になる。</p> <p>旧桐生地区の人口は、平成 2 年が 126,446 人、平成 27 年が 96,494 人、人口減少率は 24 パーセントであり、21 パーセント以上である。また、本市の財政力指数は平成 29 年から令和元年までの 3 か年の平均を用いるが、0.57 となっているため、0.64 以下となる。このため、過疎地域の対象となったものである。</p> <p>過疎地域への指定を受け、これまで本市が行ってきた人口減少対策をもう一度見直し、新しい形で取り組む必要があると考えている。</p> <p>新過疎法の前文に規定があり、過疎地域の持つ、都市とは異なる価値について明記されている。</p> <p>過疎という言葉のイメージはあると思うが、単に困っている地域を国が支援するものと捉えず、地域が持つ心地よい空間を活用し、移住・定住に結び付けていくことを後押しするものと前向きに捉え、しっかりと取り組んでいきたい。</p> <p>特に重要になるのは、人である。市内で起業する若者が増えてきていることから、本市に住む地域の方々と地域外から来る力を持った方々が連携して取り組むことが大切だと考えている。首都圏に住んでいる方がまつりやイベントなどの行事があるときは、戻ってきて手伝ってくれるソーシャル・イノベーターとも呼ばれる方も活用しながら、今後の桐生市を作っていく取組をしていきたいと考えている。</p> <p>また、今後の具体的な人口減少対策に関する取組については、「桐生市総合戦略推進委員会」の下にワーキンググループを作って、人口減少問題に特化した議論をお願いすることとしているので、よろしく願いしたい。</p>

質問者 B	<p>私たちは群馬大学国際センター学生団体ルポンのメンバーで、本日の説明にあった公約番号 7 の「国際化に伴う外国人材との共生と環境整備」に関わっており、実現していきたいと考えている。</p> <p>一点伺いたいのは、本日のように市長と意見交換を行える機会を増やしてもらうことができるかについて、である。</p> <p>9 月 29 日に開催された市長とルポンの「まちづくりミーティング」において、市長の考えを伺うとともに、学生と留学生の考えていることを伝えられ、とても勉強になった。これまで市長は違う世界にいる遠い存在だと思っていたが、市長が学生の目線になり話をしてくれたこともあり、わたしたちを育ててくれている桐生市について、自分事としてもっと関わりたいと思った。</p> <p>今後も、市長が私たち学生とコミュニケーションを図れる機会を設けてもらうことは可能であるか。</p>
市長	<p>以前行った学生との意見交換において、学生との交流が不足していることの指摘や桐生で暮らす数年間の間に地域の方々と知り合いになれず、地域のことも知らずに帰郷することとなり、残念だという話を伺った。</p> <p>桐生市には自然をはじめ素晴らし環境があり、先人たちが残した文化遺産もたくさんある。ぜひ、学生の方々にはそうしたものに触れてもらい、桐生市の住んでいたことの良さを感じてほしい。</p> <p>意見交換の機会については、インターネット上での実施や、対面で膝を突き合わせた「まちづくりミーティング」等の取組もある。学生の持つ若い発想力がこれからの時代には、とても重要であると考えており、これからの桐生市、まちづくりについての意見交換をこれからも実施していきたいと考えているので、よろしく願いしたい。</p>
質問者 C	<p>BS 日テレの番組において、本町四丁目の古民家ギャラリーを活用することと、新たな観光ポイントとして人の流れができるのではないかと期待している。</p> <p>この BS 日テレの取組には、先ほど説明のあった広報監の中澤秀夫氏が関わっていると伺った。</p> <p>中澤氏は、市の職員向けのセミナー等を実施しているとのことであるが、商店街との連携なり、接点を持つことは可能であるか。また、今後市長は広報監に、どのような活動をしてもらおうと考えているのか伺いたい。</p>
市長	<p>BS 日テレの「発見！ニッポンの神業スペシャル！」については、広報監である中澤氏が話を取り持ち、市の担当とも調整を行い実現に至ったものである。</p> <p>今後、本町四丁目の旧山梶跡のギャラリー禅林を改装して、桐生市の商品や製品を並べる「ニッポンの神業ミュージアム」を開設する予定である。</p> <p>今後広報監には、そのネットワークを活用し、企業版ふるさと納税を多く集めてもらうとともに、その活動中で、桐生市を PR してもらうことを期待している。また、職員向けには「日本の経済と桐生市の成長戦略」と題し、講演会を 2 回実施した。</p>

	<p>商店街との接点については、積極的に交流を持ってもらいたいと考えているので、そうした機会が必要とのことであれば調整するので、よろしくお願ひしたい。</p>
質問者 D	<p>人口減少については、桐生市のみではなく、全国的な問題である。</p> <p>町会や自治会についても人口減少に課題が出てきており、役員のなり手不足に困っている状況である。</p> <p>先日、市長は区長との意見交換会を行ったとのことであるが、今後、町会や自治会のあり方について、どのように、検討をしていこうと考えているのか、伺いたい。</p>
市長	<p>先般初めての試みとして開催した「区長と市長との集い」において、区長から様々な意見を発言することができ、良かったとの意見ももらっているが、その反面、役員の高齢化や担い手不足に困っているという話があった。</p> <p>その課題を解決する手段として、アンケートにおいては、人材発掘や女性の登用、自治会の再編といった意見があったが、いきなり自治会の再編に取り組もうとすると、特に区には、消防団や民生委員・児童委員など、様々なところに関係するので、話し合いなどの事前調整を行う時間がかかるものと考えている。</p> <p>しかしながら、先程説明したとおり、新里町新川、相生町二丁目と末広町一丁目の町会など、自治会ごとの世帯数に大きな差があることを踏まえると、このまま放っておくことはできない課題である。</p> <p>自主防災組織にも関係するが、まずは町会の方々が防災や町内美化活動などに特化した活動を行い、いざというときに頼りになる町会・自治会を目指すことで、女性やこれまで関心のなかった方々が町会・自治会に関心を持ってくれるのではないかと考えている。</p> <p>なんでもありという活動ではなく、まずは防災等を切り口にし、必要な体制を検討しながら、取り組んでいくことが必要であると考えている。</p>
質問者 E	<p>先程の質問者と同様に群馬大学国際センター学生団体ルポンのメンバーとして、公約番号 7 の「国際化に伴う外国人材との共生と環境整備」に関わっており、実現していきたいと考えている。</p> <p>今後、この取組を進めていくに当たり、取組内容や取組の成果に対して、市長や住民の方々に広く意見をもらい、その意見を反映し、改善していきたいと考えている。</p> <p>そうした意見交換の場を設けてもらうことは可能であるか伺いたい。</p>
市長	<p>過去 2 回実施したまちづくり懇談会に群馬大学の学生が参加してくれたのは初めてのことで、ルポンのまちづくりミーティングが契機となり、興味を持って参加してくれたことを思うと非常に嬉しく思う。</p> <p>例えば、高齢化に伴い地域のまつり行事において、神輿の担ぎ手がいなくなったり、育成会では、子どもの対応ができなくなってしまう。</p> <p>そうした地域に関係人口として群馬大学の学生に入ってもらい、地域の方々と連携して</p>

	<p>取り組むことができれば良いと考えており、今般のルポンの取組として行う「多文化共創プラットフォーム (kiryu Network) 」の中で、そうしたマッチングを可能にしてもらいたいと考えている。</p> <p>学生の皆さんの取組に対し、市からも様々な事業を通じた協力や情報提供を行っていきたくて考えているので、様々な機会を捉え、質問された意見交換の場も含め取り組みたい。</p>
質問者 E	市長の意見について、ルポンに持ち帰り、前向きに検討したい。
質問者 C	群馬大学の学生に地域行事に関わってもらえるような仕組み作りについては、商店連盟からもお願いしたいので、何かの際にはコンタクトをとっていききたい。
質問者 E	よろしくお願ひしたい。
司会	前向きな発言に御礼申し上げます。
質問者 F	<p>さきほどの説明において、相川橋から赤岩橋までの中州等の雑木の伐採についての説明があったが、赤岩橋の下流においても樹木がたくさん生えているところがある。</p> <p>国がいつ対応してくれるのかが分からないのであれば、とりあえず市の方で、又はシルバー人材を活用するなどして伐採しておけば、上流で大雨が降ったとしても災害は起きないのではないかと思うが、いかがであるか。</p>
市長	<p>渡良瀬川の管轄は国土交通省となることから、河川内の樹木を伐採するためには国の許可が必要となり、市が勝手に行うことはできないものとなっている。そのため、市の方で行いたい気持ちはあるがそうしたルールがあるので、理解してもらいたい。</p> <p>また、樹木の伐採については、一部分のみを行えばよいというものではなく、上流から下流まで一体的に行わないと、一部分の所で越水を起こし、災害が起きてしまうこともある。</p> <p>今般の国の計画では、相川橋から始まって、徐々に下流に向かい整備を進め、最終的にはきれいな中州の状態になる。</p> <p>したがって、市が直接伐採することは難しいが、ただ今の意見をしっかりと国に伝え、要望していくので、よろしくお願ひしたい。</p>
質問者 G	<p>私は、飲食店を営んでいるのですが、桐生市は「食」のレベルは高いと感じている。</p> <p>このたび群馬銀行桐生支店の近くのシャッターが閉まっていた空き店舗を改修して、飲食店の方たちと、「もりもりマルシェ」という弁当屋を開店した。その際、桐生市の空き店舗改修補助金を活用させてもらいありがたかった。</p> <p>これからも、一つひとつ、シャッターが開いていくようになれば良いと考えているが、空き店舗を減らしていくために、今後、どのような取組みを考えているのか伺いたい。</p>

市長	<p>多くの方々に賑わう「もりもりマルシェ」の弁当屋をオープンしてもらい、感謝申し上げたい。マスコミにも取り上げられているが、今般の取組を空き店舗活用のモデルケースにしていきたいと考えている。首都圏から桐生に移住し、空き店舗を活用した起業が増えている背景があるが、「もりもりマルシェ」についても、桐生市のものづくり文化に根差した精神があるからこそできた取組であると思う。</p> <p>桐生独自の「小さくてもきらりと光るビジネスチャンスのあるまち」をキャッチフレーズにしているが、そうした取組を後押ししたいと考えており、空き店舗活用型新店舗開設・創業促進事業補助金やリフォーム助成金など、市が実施している助成事業等を広くPRしながら、ソフトと共にハードについてももしっかり支援していることを周知してまいりたい。</p> <p>引き続き、「もりもりマルシェ」を盛り上げるとともに、空き店舗活用の相談役として活躍してもらえるよう、お願いしたい。</p>
----	--